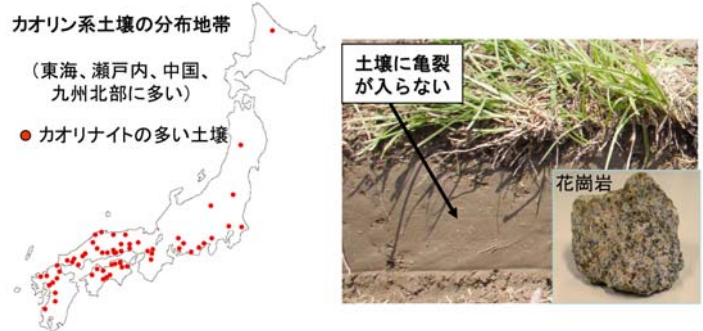
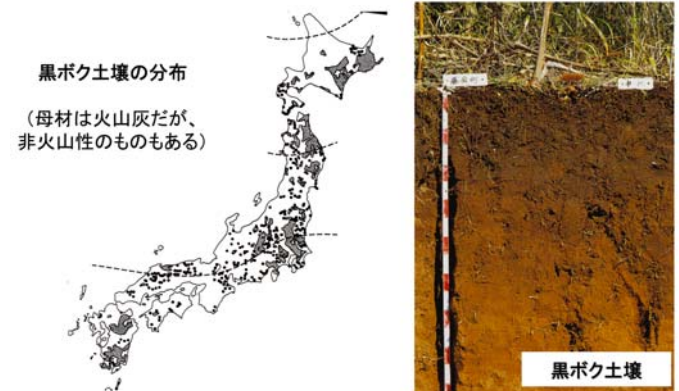


と土壌が硬くなり、耕うん後の降雨で土壌表面にクラストを形成して大豆の発芽を著しく阻害します。このため、不耕起や表層だけの耕うん(浅耕)で栽培すると、クラストができにくいというえ、植物や土壌生物による孔隙も残り、透水性が優れ、大豆の発芽や根系発達が良い、生育が向上すると考えられます。



### ②黒ボク土壌における耕うん法

黒ボク土は、九州、関東、東北及び北海道を中心に、火山の山麓や台地を中心に分布しています。この土壌は、腐植とアロフェンが多く、団粒構造がよく発達し、保水性、通気性、透水性等の物理性が優れています。耕うんによる悪影響は小さく、普通耕(耕深 13cm 程度)で大豆の生育は良好です。しかし、多量の降雨があると黒ボク土でも過湿やクラストによる障害が生じます。多雨であった平成 16 年度には、播種床部の部分浅耕により根粒着生改善や生育改善効果を認めています。



### ③モンモリロナイト系重粘土壤における畝立て栽培

北陸地方には、重粘土壤が多いのですが、その粘土鉱物はモンモリロナイトを含んでいます。モンモリロナイトは乾燥で収縮し、湿潤で膨潤するため、この土壌では乾燥すると孔隙が多くなり透水性も優れていますが、水分が高まると透水性が著しく低下します。このため、降雨前にできるだけ土壌を乾燥させ孔隙を増加させることが重要で、畝立てなど十分な耕うんを効率的に行う技術が必要です。アップカットロータリを用いた耕うん同時畝立て播種機(写真2)を適用すると、重粘土を十分に碎土して土壌の乾燥を促進させることによって、大豆の湿害を軽減し、収量がかかなり向上することが認められています。排水不良ほ場におけるこの耕うん同時畝立て播種技術は、砂壤土等の重粘土壤以外でも有効であることが確認されており、湿害回避栽培法として大きく期待されています。

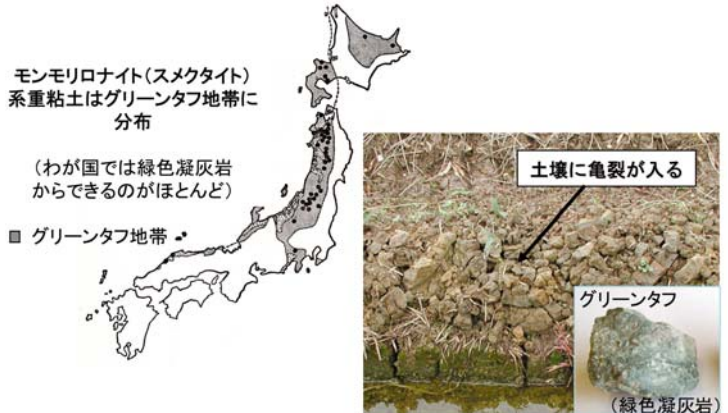


図1 粘土鉱物によるわが国大豆生産ほ場の土壌の分類



写真2 重粘土ほ場向けに開発された改良型アップカットロータリを装備した畝立て・施肥・播種同時作業機

参照：農林水産研究開発レポート No.13 (2005) 農林水産省農林水産技術会議

— 美しい農村景観を今に残す‘はざ木並木’ —



新潟市(旧岩室村)夏井集落には、「美しい日本のむら景観百選」にも選ばれている約700本のはざ木(稲架木)並木が保存されています。

はざ木は刈り取った稲を乾燥するために使用され、竹竿をはざ木の間へ渡し、そこに稲束を掛けていきます。昭和始めの耕地整理の際に農道や畦畔沿いに移植されました。

昔は岩室村全域で見ることができましたが、昭和の終わり頃には、人工乾燥機等の普及に伴い、多くのはざ木が伐採されました。

しかし、はざ木の景観を保存しよう

とする機運の高まりから、集落を中心に保存活動が行われています。

現在では岩室温泉観光協会と夏井集落で「枝おろし祭り」を実施し、地域住民やボランティアが参加して、はざ木の管理・枝おろし・補植などを行い、はざ木を守り育てています。その他にも、「稲刈り・はざ架け体験」等のはざ木を利用した農業を体験するイベントも開催されており、集落と都市住民の交流も行われています。



岩室温泉観光協会  
TEL : 0256-82-5715  
<http://www.iwamurokankou.com>

— 田んぼや農家を見守る「田の神さあ」 —



鹿児島県や宮崎県(旧薩摩藩領内)の水田地帯を散策すると、田んぼの畦や集落の入り口に愛嬌のあるほほえましい石像に出会います。それは、「田の神さあ(たのかんさあ)」と呼ばれており、五穀豊穡の神様として昔から地域の農家によって大切にされています。

「田の神さあ」は甕罎(こしきす・シキ)を頭にかぶった農民の姿をしたものや神官姿、地藏型をした姿など。持ち物はしゃもじや腕を持ち、表情は笑ったり踊ったりなど様々です。

「田の神さあ」にまつわる風習として

は、豊作を祈願する「回り田の神」があります。春と秋に「田の神さあ」が農家を回り、当番の家では田の神像を化粧し、ごちそうを作り大事に床の間に奉ります。

宮崎県えびの市では、昭和61年から田の神さあをシンボルとする「田の神さあのりづくり」運動に取り組んでおり、地域の文化財として位置づけられています。



地域の人々に親しまれている「田の神さあ」は、約300年もの間田んぼと農作業を見守り続けています。

えびの市役所 総務課  
Tel : 0984-35-1111  
<http://www.city.ebino.lg.jp/>

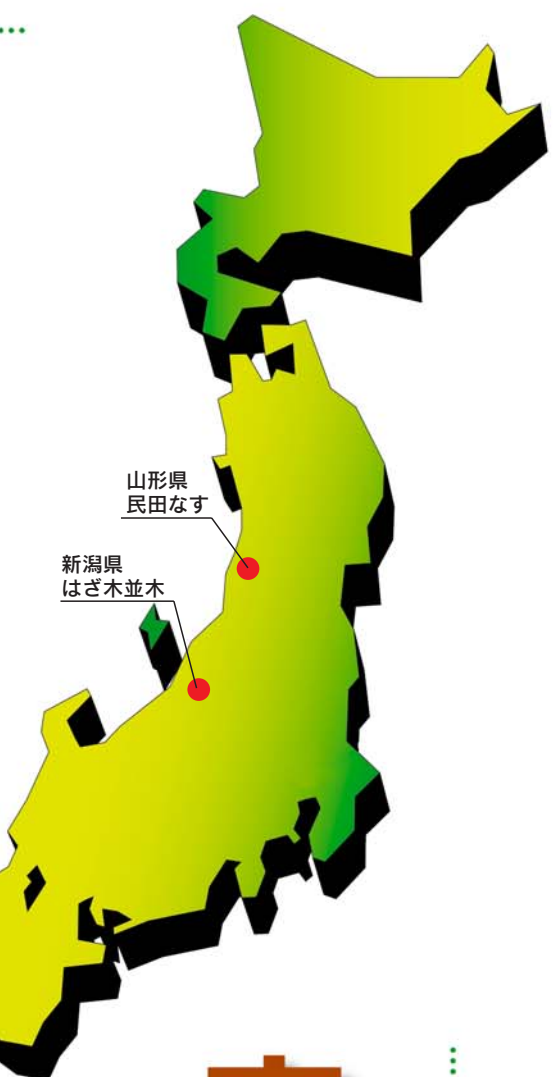
今号のテーマ  
「残したい農村の伝統」

農村には、昔から伝統的に受け継がれてきた農作物、地域活動が息づいています。

このような美しい農村の伝統を守っている活動を紹介します。

北から





# 南から

## — 芭蕉も食べた小さな丸なす —



山形県鶴岡市の民田集落では、「民田（みんでん）なす」という小さな丸なす栽培されています。

由来は300年以上前、宮大工が京より持ち込んだ種を、民田集落周辺に蒔いたのが始まりとされています。

昔は民田集落のどの家にも「民田なす」があったと言われますが、現在は約30戸で栽培しているに過ぎません。

土作り、追肥、かん水、風よけなど、細やかな管理によって栽培され、収穫は暑い8月上旬から旧盆までが最盛期。収穫時の大きさは1個10～14g。小さいかと思われませんが、これで十分に成長した形だそうで適期を逃さず収穫するのが重要とのこと。

形のいい実を厳選して種子用に育て、

また結実性が高いことから、民田なす畑の周辺に他のなす類を一切植えないなど、血統を守るため管理を徹底し、集落ぐるみで「民田なす」を守っています。

“～めずらしや山を出羽の初なすび～”あの松尾芭蕉が出羽三山の巡拝を終え鶴岡で「民田なす」を食べて詠んだ句と伝えられています。優雅な言い伝えを秘めた、小さな丸なすです。



【おいしい山形推進機構写真提供】

東北農政局農村計画部資源課  
TEL：022-263-1111（内4119）

## — 1000年以上受け継がれている雨乞い行事 —



香川県は、降水量が1,000mmを上回る程度（全国平均1,718mmの約6割）と少なく、川は勾配が急で短いため、降った雨もすぐに海へ流れる

など、水利用には極めて不利な地理的条件にあることから、14,000ヶ所以上のため池（全国第3位）があります。

このような背景から県内には雨乞いにまつわる行事が数多く行われています。

綾川町の「滝宮の念仏踊」（毎年8月25日開催）は香川県でも代表的な雨乞いを起源とした行事であり、888年の大干ばつの時に、菅原道真公が7日間の雨乞いを行い、大雨を降らせ民衆を救ったことを讃えて踊ったことに由来し、国の重要無形文化財に指定されて

います。

この行事では、綾川町の旧村単位に組織した11組の踊組のうち3組が踊りを奉納します。（全11組が参加する総踊りは5年に1度）いざ干ばつとなると「雨乞い奉納」の色合いを深め現在は、念仏踊りの前に行われる代表者会議で、雨乞い奉納として行うかが決められます。

この行事を継承する組織として昭和28年に11の踊組合同の「滝宮念仏踊保存会」が設立されましたが、各踊組の存続は地域が責任を持って受け継いでいます。



綾川町教育委員会  
（滝宮念仏踊保存会事務局）  
TEL：087-876-1180

### 企画・編集・発行

#### 農林水産省農村振興局企画部資源課

〒100-8950 東京都千代田区霞が関 1-2-1

TEL : 03-3502-8111 (内線 4758)

E-Mail : shigen\_eino@nm.maff.go.jp

本誌では、国営土地改良事業における営農を支援するための先進事例や営農技術等について年2回紹介しています。掲載内容についてのご意見や今後取り上げて欲しい情報等がありましたら、上記連絡先までお知らせ下さい。

掲載記事に関するお問い合わせは、下記の最寄り機関までご連絡下さい。

#### ●各地方農政局

東北農政局農村計画部資源課 〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-3-1 TEL:022-263-1111 (内線 4119)

関東農政局農村計画部資源課 〒330-9722 さいたま市中央区新都心 2-1 TEL:048-600-0600 (内線 3444)

北陸農政局農村計画部資源課 〒920-8566 金沢市広坂 2-2-60 TEL:076-263-2161 (内線 3452)

東海農政局農村計画部資源課 〒460-8516 名古屋市中区三の丸 1-2-2 TEL:052-201-7271 (内線 2542)

近畿農政局農村計画部資源課 〒602-8054 京都市上京区西洞院通り  
下長者町下ル丁子風呂町 TEL:075-451-9161 (内線 2452)

中国四国農政局農村計画部資源課 〒700-8532 岡山市下石井 1-4-1 TEL:086-224-4511 (内線 2552)

九州農政局農村計画部資源課 〒860-8527 熊本市二の丸 1-2 TEL:096-353-3561 (内線 4352)

●北海道開発局農業水産部農業計画課 〒060-8511 札幌市北区北八条西 2 TEL:011-709-2311 (内線 5514)

●沖縄総合事務局農林水産部土地改良課 〒900-8530 那覇市前島 2-21-7 TEL:098-866-0031 (内線 368)

本誌バックナンバーは営農推進インフォメーションホームページ

<http://www.maff.go.jp/nouson/sigen/einou/index.html> でご覧になれます。